

# 1人暮らし 高齢の親 急病時 携帯に連絡

## ボタンひとつで家族へ 応答なければ別番号に

「離れて一人で暮らしている高齢の親の安否を携帯電話で迅速に確認したい」。単身高齢者の日常生活の変化を子供など家族の携帯に伝えるサービスが相次ぎ登場している。親が急病時にワンタッチのボタンを押すだけで複数の連絡先につながる。センサで世帯と異なる状況を推測してメール送信、緊急性を高めたのが特徴だ。

### 安否確認できる冷蔵庫も

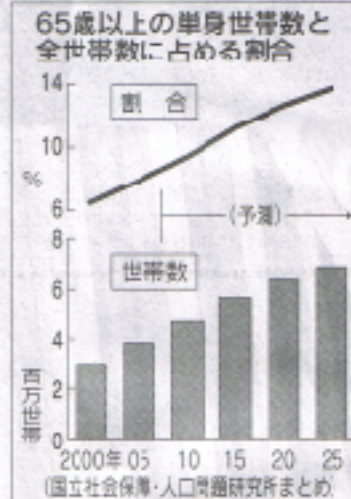


冷蔵庫を併用する冷蔵庫などで安否を確認(東京都世田谷区のアートデータ)

ITを利用した主な確認サービス		
企業名	商品・サービス名	特徴
エムティーシー(東京・新宿)	いちえちゃん(緊急通報システム)	装置本体に登録した最大5件の携帯電話にワンタッチでつながる
ハラマウントベッド	楽匠~自立促進シリーズ(ベッド)	高齢者の起き上がりなどの動作履歴を携帯などで確認できる
象印マホービン	みまもりほっとライン(メール)	ポットを使用した時刻を家族が指定した待機時間に1日2回、メールで通知
アートデータ(東京・世田谷)	アートナンバー1(メール)	マンサーを利用した「異常」や「不安」などの画像付きメールの送信、携帯メールで通知

電子機器開発のエムティーシー(東京・新宿)が九月に発売する家庭向け緊急通報システム「いちえちゃん」(六万五千円)は、親が設置したボタンを一回押すだけで家族などの携帯電話に自動的につながりマイクを通じて会話できる。電話回線を利用、室内インターホンのような形状で、高齢者にも使いやすい。最初の連絡先に五十秒間かけてもつな

がらない場合は、次の登録番号に自動でかけ直すため、操作が一度ですむ。ハラマウントベッドは九月に発売する電動ベッドの新製品に、設定した時間を超えてベッドが動かなかつた場合は、「警告」として家族の携帯にメールで知らせるサービスをつける。ベッドとは別に設置の設置料金が五万円程度、利用料金が毎月千八百円必要。こうしたサービスの先駆けとなったのが象印マホービンの電気ポットの利用状況を電子メールで配信する「みまもりほ



とライン」だ。家族が設定した時間に一日二回、「8/30 17:45 給湯」などの利用状況を送る。契約料が五千二百五十円、毎月の利用料金が三千五百円。現在の加入者は約二千四百件で、この一二年は毎年三〇%前後の伸びという。

「アートデータ(東京・世田谷)も冷蔵庫やドア、マットなどに取り付けたセンサを利用して、やはり使用状況から安否確認を携帯などにメール送信するサービスを提供。この二三年で申し込みは毎年一五%程度伸びた。価格は設備費三万円か

ら、月間料金が千円。いずれも普通に生活している時のテレビ電話などは異なり、親が急病や事故に陥った場合の連絡を家族に自動的に知らせることで、親子の不安を解消する。

また内閣府が二二年に実施した「一人暮らし高齢者に関する意識調査」によると、将来の日常生活に「不安を感じる」とした人は五九・五%に上った。

厚生労働省の国立を公表した「都道府県別世帯数の将来推計」によると、二〇〇五年の六十五歳以上の単身世帯数は三百八十六万一千世帯で全世帯に占める割合は七・九%と〇〇年に比べ一・四%上昇した。一〇年には四百二十万

**日本経済新聞**  
8月30日  
火曜日